

秋に咲いた花は実になる

目次 CONTENTS

■ 激励メッセージ.....	1
■ 先輩たちの合格体験記.....	2
■ 国家試験ワンポイントアドバイス.....	3

(編集担当：添田 正揮)

激励メッセージ

いよいよ9月です。国家試験まで、あと約5か月となりました。

皆さんはこれまで、授業や国家試験対策講座などを通して、少しずつ準備を重ねてきました。「まだ5か月ある」と感じる人もいれば、「もう5か月しかない」と感じる人もいるでしょう。そして9月は、これまで積み重ねてきた学びを、「**自分自身の国家試験**」に向けた勉強へと切り替えていく時期でもあります。

9月の実力が、そのまま本番の実力になるわけではありません。

国家試験までの約5か月で、力はまだまだ伸びます。大切なのは、これまで受けてきた講義や対策を「受けた」で終わらせず、ここから自分の学習として積み重ねていくことです。

過去問や模擬問題にも、繰り返し取り組んでみてください。今、正解できない問題があっても構いません。間違えた問題は、単なる「できなかった問題」ではなく、**これから得点に変えられる問題**です。なぜ間違えたのか。正しい選択肢はなぜ正しいのか。他の選択肢はどこが違うのか。一問から一つでも学び取る。それを積み重ねていけば、これまで授業や対策講座で学んできた知識が少しずつつながり、「知っている」から「分かる」、そして「解ける」へと変わっていきます。国家試験の勉強では、一度ですべてを覚える必要はありません。忘れたら、また戻ればいい。繰り返すたびに理解は深まり、解ける問題は確実に増えていきます。

秋に咲いた花は実になる。

すでに花を咲かせている人もいれば、これから大きく花開く人もいるでしょう。これまで育ててきたものを、ここから自分の力で育て続けてください。次号のニューズレターを読む頃、「9月からの積み重ねが力になっている」と感じられるように。

国家試験まで、あと約5か月。

ここからの一問一問が、やがて実を結びます。

添田 正揮



先輩たちの合格体験記

～私の勉強法～ 佐藤宏樹さん(行政専修卒)

あいさつ

みなさんこんにちは！国家試験の勉強は進んでいますか？

就活や卒論などが忙しくてほとんど勉強していない！という方も多いと思います。勉強方法が分からなくて困っている、という方は私の勉強方法を参考にしてみてください。

声に出して勉強する

まずお伝えしたいのは、私は3年生の1月の模試で78点を取りました。この点数はちょうど合格基準点である6割の点数です。このような高得点を取れたのは、普段の学習で音読をしていたからだと思っています。この学習方法をしていたのは、私は耳から聞こえる情報の方が覚えやすいと感じていたからです。そして、音読の利点として書くよりも早く繰り返せます。早く繰り返せると暗記がスムーズに行えます。音読にはこのような利点があるため、単語の意味などを覚える際に活用してみてください。

模試を振り返ることの重要性

模試を振り返ることはとても効果的な勉強方法でした。私がこの重要性に気づいたのは11月の模試の時です。この模試で前の模試と同じような問題を間違えていることに気づきました。この模試から模試の解答解説を読み、自分が間違えた問題を見直すようになりました。また、参考書を使っても模試で間違えた問題に関する学習を行いました。こうしたことを行い、次の模試では得点が上昇しました。みなさんも模試の得点に伸び悩んだら、それまでの模試で間違えた問題を見直してみてください。

人物・年号

大学が公開している講座に申し込むと資料としての国家試験の問題に関わる人物・年号について記された本がもらえます。私はこの本の内容を覚えたことで得点を上昇させることができました。また、この本の内容は短期間で覚えることができるので、試験直前の追い込みにも向いています。そして、この本を読むときは本に書かれている文章を音読してみてください。本に書かれているのは語呂合わせなので、音読することで効率的に覚えられると思います。人物・年号を覚えていないと5点は点数が下がると思うので、ぜひ人物・年号は覚えてください。

休憩の大切さ

勉強をするときは休憩を挟むことが重要だと思います。私は25～30分勉強したら5分休憩していました。休憩をするのは集中力を保つためです。休憩時間に水分補給や軽い運動をすることで集中力を維持していました。また、この方法は勉強開始のハードルを下げてくれました。人間のやる気はやり始めないと上がらないそうです。そのため、勉強がなかなか始められない人は、まずは1分だけ勉強するなど勉強開始のハードルを下げると思います。

国家試験ワンポイントアドバイス

— 各科目の頻出ポイントを担当の先生が解説します —

「地域福祉と包括的支援体制」

川島 ゆり子

いよいよ、秋学期になり、いよいよ国試対策・卒業論文作成等忙しくなってきますね。模擬試験の受験や振り返り、全体の見直しや弱点科目の強化など、国家試験に向けてふんばりどころですので、互いに励まし合いながらがんばっていきましょう。

地域福祉と包括的支援体制は、昨年度の問題がかなり難問だったので過去問でその問題を解いた人は苦手意識を持っているかもしれません。けれど、例年は基本的には地域福祉と包括的支援体制の出題は過去問に沿ったオーソドックスな出題が多いのが今までの傾向でした。また他の科目との重なりも多いので他の科目で押さえておけるところは除いて、地域福祉と包括的支援体制としてのポイントを整理したいと思います。事例問題が毎年数問出題されますが、基本的に「住民任せ、専門職任せにしない」「孤立しがちな状況にある人の、地域社会への参加」ということを押さえながらソーシャルワーカーとしての動きを確認しておけば解けるチャンス問題ですので、確実に得点しておきましょう。そのほかの問題のポイントは以下の3点です。

1. 地域福祉に関する法律

他の分野（高齢・障害・児童・生活困窮等）と重なる項目も多いので、地域福祉としては、「社会福祉法」の地域福祉の理念に関する条文4条、 包括的支援体制に関する106条2以下 地域福祉計画に関する107条108条 社会福祉協議会に関する109条110条 共同募金に関する112条～118条 この辺りを見ておきましょう。（*災害に関する問題は今後も出題される可能性が高いので、災害対策基本法もチェックしておきましょう）

2. 地域福祉の実践主体

社会福祉協議会、民生委員・児童委員、NPO法人、社会福祉法人という地域福祉の実践主体については、基本的な知識を問われる問題が出る可能性があります。参考書を見ながら運営の仕組みや実践の特徴を押さえておきましょう。

3. 包括的支援体制

包括的支援体制については、科目名にもなっていることから必ず出題されると思っておいってください。包括的支援体制の3つの柱（相談支援・参加支援・地域づくり支援）や、包括的支援体制を具体的に推進する「重層的支援体制整備事業」については、必ず見ておくようにしておいてください。全般的に、地域福祉と包括的支援体制の出題については、実践よりは「しくみ」についての設問が多くなってきている傾向ですので、この部分は得点源になりやすいところですよ。

応援しています、頑張ってください！！

第 37 回・第 38 回の出題をみると、単なる知識の想起ではなく、**知識を理解し、具体的な事例に適用して判断する力**が重視されています。第 39 回に向けては、過去問だけでなく、**出題基準の中項目・小項目（例示）を学習範囲の基本**として、次の 3 領域を関連づけて学習しましょう。※★の数は出題予想ではなく、出題基準と第 37 回・第 38 回国家試験の出題傾向を踏まえ、第 39 回国家試験に向けた学習上の優先順位を分かりやすく示すためのものです。

★★★ 最優先 | ミクロ・メゾ・マクロと包括的支援・多職種連携

【出題基準：大項目 2・3】

「ミクロ・メゾ・マクロレベルの意味・対象」だけでなく、**各レベルへの介入、レベル間の関連性、支援の実際**まで理解しましょう。また、ジェネラリストの視点から、**多機関による包括的支援、フォーマル・インフォーマルな社会資源との協働、ソーシャルサポート、多職種連携、機関・団体間の合意形成、利用者・家族の参画**を関連づけて整理することが重要です。事例では、「誰・何に働きかけるのか」「どのレベルへの介入か」「誰と協働するのか」「本人・家族はどのように参画するのか」を考えましょう。

★★☆ 重要 | 社会福祉士の職域と専門職

【出題基準：大項目 1－中項目 2～4】

社会福祉士の職域は、福祉だけでなく、**行政、医療、教育、司法、独立型事務所等**に広がっています。また、福祉事務所の現業員・査察指導員・社会福祉主事、児童福祉司、生活相談員、社会福祉協議会職員、スクールソーシャルワーカー、医療ソーシャルワーカーなども整理しましょう。

名称の暗記にとどまらず、「どこで・誰を対象に・何をする専門職なのか」を制度や根拠と結びつけて理解することがポイントです。

★★☆ 基礎として確実に | 専門職の概念と諸外国の動向

【出題基準：大項目 1－中項目 1・5】

ソーシャルワーク専門職の概念・範囲や諸外国の動向について、人物名や報告書名だけを覚えるのではなく、「何を提唱したのか」「ソーシャルワーク専門職の発展にどうつながったのか」まで理解しましょう。

【学習のポイント】

第 37 回・第 38 回で出題されていない内容も、出題基準に含まれていれば出題範囲です。過去問は「出たところだけを覚える」のではなく、**出題基準のどの中項目・小項目から、どのように問題が作られているか**を確認するために活用しましょう。

覚える → 区別する → 関連づける → 事例で判断する

これが対策の基本となります。

第 37 回・第 38 回の出題をみると、単なる知識の想起ではなく、**知識を理解し、具体的な事例に適用して判断する力**が重視されています。特に、個人や家族への支援だけでなく、集団、組織、地域、社会資源などを含めて状況を捉え、複数の方法を組み合わせて支援を考えることが求められています。過去問だけでなく、**出題基準の中項目・小項目（例示）**を学習範囲の基本として、次の内容を関連づけて学習しましょう。※★の数は出題予想ではなく、出題基準と第 37 回・第 38 回国家試験の出題傾向を踏まえ、第 39 回国家試験に向けた学習上の優先順位を分かりやすく示すためのものです。

★★★ 最優先 | 総合的・包括的な支援

【出題基準：大項目 7】多様化・複雑化した生活課題、今日的な地域福祉課題、分野・領域を横断する支援、家族が抱える複合的な生活課題などを押さえましょう。事例では、問題を本人だけに求めず、**本人－家族－集団－組織－地域－社会資源などの関係から状況を捉え、どこに、どのように働きかけるのか**を考えることが重要です。

★★★ 最優先 | 社会資源・ネットワーク・地域への働きかけ

【出題基準：大項目 2・3】社会資源の活用・調整・開発、ニーズの集約、提言、計画、ソーシャルアクション、ネットワーキングなどを関連づけて理解しましょう。既存のサービスにつながるだけでなく、**必要な資源をつなぐ・つくる、地域や制度に働きかける**という視点が重要です。ミクロ・メゾ・マクロの各レベルをつなぐネットワークについても理解しましょう。

★★☆ 重要 | 援助関係・面接・アウトリーチ

【出題基準：大項目 1】援助関係、自己覚知・他者理解、コミュニケーション、ラポール、面接技術、アウトリーチを整理しましょう。用語を覚えるだけでなく、事例から「誰に、なぜ、どのように働きかけるのか」を判断できるようにすることがポイントです。

★★☆ 重要 | 関連する方法・事例分析

【出題基準：大項目 4～6】コーディネート、ネゴシエーション、ファシリテーション、プレゼンテーション、カンファレンス、事例分析・事例検討などは、それぞれの意義・目的・方法・留意点を整理しましょう。「何という方法か」だけでなく、「どのような場面で、何を目的として用いるのか」まで理解することが重要です。

【学習のポイント】

この科目では、知識を個別に暗記するだけでは十分ではありません。

事例を読む → ニーズを捉える → 人と環境の関係を考える → 働きかける対象を決める → 方法・技術を選ぶ → 社会資源やネットワークにつなげる

というソーシャルワーク実践の思考の流れに沿って過去問を解きましょう。

「福祉サービスの組織と経営」という科目は扱う分野が幅広くはありますが、出題内容についてはポイントが絞られてきます。過去問を参照しながら、出題されやすいトピックを抽出して勉強していきましょう。第38回国家試験は全体的に難化しており、この科目も例外ではありませんでした。二択問題も増加し、さらにこれまでの出題内容とは異なる問題も出てきています。知識がしっかり定着しているかが問われる科目となっています。

■ 出題傾向と頻出テーマ

まず、毎年必ず出題されているのが「社会福祉法人」「会計・財務管理」「組織経営の理論」に関する問題です。評議員会の役割、残余財産の扱い、事業区分ごとの会計処理など、基本制度の理解が求められます。「特定非営利活動法人（NPO 法人）」についても高頻度で出題されており、制度上の特徴を比較しておくことが重要です。経営理論ではウェーバー、バーナード、テイラー、サイモンなど理論家と用語の結びつきを押さえておきましょう。

その他には、ハラスメント、人材マネジメント（OJT・Off-JT・目標管理制度・キャリアパス・キャリアアンカー・モチベーションなど）、集団の力学（集団浅慮、集団の凝集性・コンフリクトなど）、サービス提供体制の管理、リーダーシップなどは押さえておきましょう。さらに、組織間連携の問題がそろそろ出題されてもおかしくありません。

この科目の出題範囲は広く、上記以外の分野の問題が1～2問程度は出題される可能性があります。見方を変えれば確実に4～5問くらいは出題される問題が予想できます。

■ 時事問題との関連:移民介護人材にも注目

2026年度の試験では、介護人材確保の文脈から、移民労働者の受け入れや制度設計に関する出題の可能性があります。経済連携協定（EPA）による受け入れ国（インドネシア、フィリピン、ベトナム）や、技能実習制度、特定技能制度との違いなど、ニュースと結びつけて確認しておきましょう。

■ 新カリで踏まえておくべきこと

「社会福祉経営論」の中でも何度か説明しましたが、この科目で学ぶ内容は社会福祉法人制度改革の流れの影響を受けています。平成29（2017）年の改革では、「経営組織のガバナンスの強化」「事業運営の透明性の向上」「財務規律の強化」「地域における公益的な取組を実施する責務」「行政の関与のあり方」が主な内容として取り上げられました。

これらの流れを知っておくだけでも、正答を推測することができます。こういった社会的な背景も知っておきましょう。新カリでは、事例問題や「国語力」が求められる問題が多くなっています。その上でも、大まかな制度改革の流れを知っておくことで解ける問題もありますので、鳥の目（＝大まかな社会や制度の流れ）と虫の目（＝細かい用語などの知識）の両方を意識して学習していきましょう。

後期 模試・対策講座スケジュール

模擬試験と試験対策を効果的に活用し、これまで身につけてきた力を確かめ、今の自分に必要な課題を見つけていきましょう。

国家試験本番までの時間を大切に、一つひとつの学びを積み重ね、自信をもって本番を迎えられる力につなげてください。

模試・対策講座スケジュール

日時 ※開催時間は変更となる場合があります		対策講座【講師名】 / 模擬試験	備考
第2回模擬試験	9/19(土)精神 9:30～13:10 9/20(日)社士 9:30～15:30	福祉教育カレッジ模試	美浜キャンパス
第3回模擬試験	11/15(日)社士 9:30～15:30	中央法規模試	美浜キャンパス
第2回対策講座	11/29(日) 9:20～17:15	中央法規模試解説講座 【飯塚慶子先生】	Zoomにて実施 欠席者には見逃し配信あり
第4回模擬試験	12/20(日) 9:30～15:30	赤マル福祉模試	美浜キャンパス
第3回対策講座	12/25(金)10:00～ 2027/1/4(月)10:00	年末年始総まとめ講座 【飯塚慶子先生】	オンデマンド配信
第4回対策講座	2027/1/11(月・祝)	重要ポイント最終チェック講座 【海老澤浩史先生】	Zoomにて実施 欠席者には見逃し配信あり